

チキムケムケム



タンタカタカタカ、スットントン
目覚ましが鳴った。父さんが買ってきた目覚まし時計。
机の本棚の上に乗っている。

——あと、五分は寝られるのに……。

ぼくの寝起きが悪いから、父さんが五分前に設定して、
立ち上がらないと目覚ましの音は止められなくなっている。

「純、早く、目覚まし、止めてよ」

中二の姉ちゃんはこの目覚ましを嫌いだ。

「毎朝毎朝、しょうがないね。五年にもなってる」

母さんの愚痴も毎朝同じだ。居間からはテレビの声も父
さんの声も聞こえる。勤め先の仲本電気工事へはもうすぐ
出かける。

「弁当持った、携帯よーし、おっと小銭、小銭」

きつと、近所の百均で働いている母さんのバッグを開け
て、小銭を取り出しているに違いない。3DKだけど狭い
間取りの団地の騒がしさは筒抜けだ。父さんは自動販売機
でタバコやらお茶を買う小銭なのだろうけど、見つかるた
びに母さんに文句をいわれている。

姉ちゃんが洗面台でドライヤーのスイッチを入れたから、
家中が余計にうるさくなった。起きるしかない。Tシャツ
を着て、ズボンをはいて、ランドセルの肩ヒモを持って居
間に行った。

そんなときにチャイムが鳴ったのだ。

「こんな朝早く、誰なのよ」

母さんは文句をいいながらも、

「はーい」